

経営比較分析表（平成30年度決算）

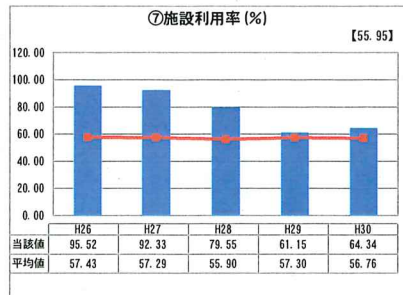
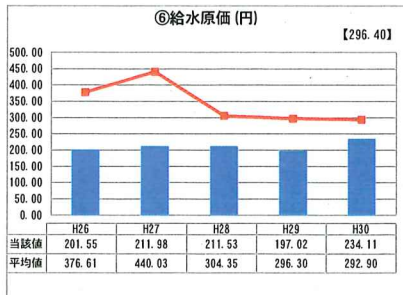
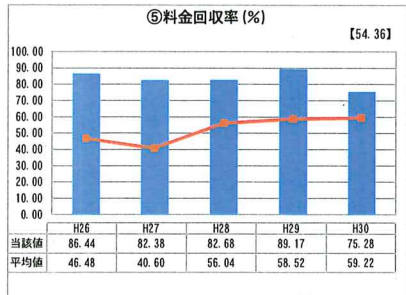
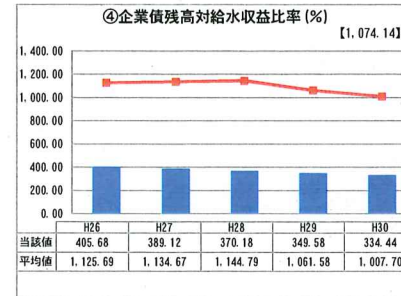
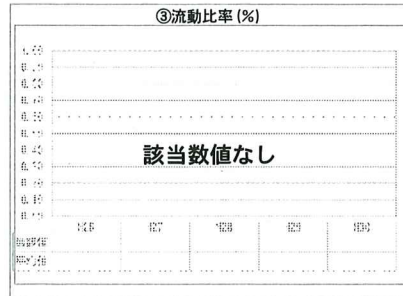
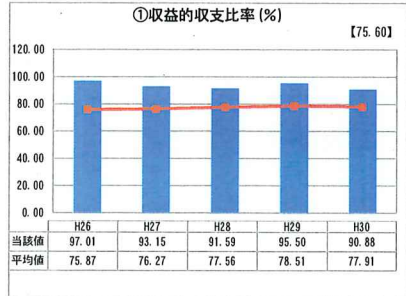
埼玉県 東秩父村

業務名	業種名	事業名	類似団区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	98.89	2,894	

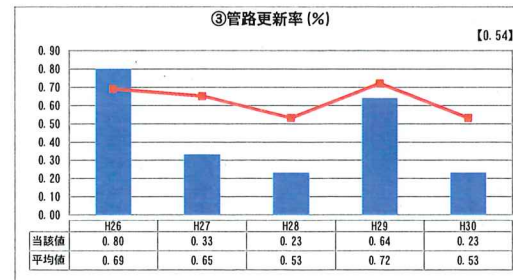
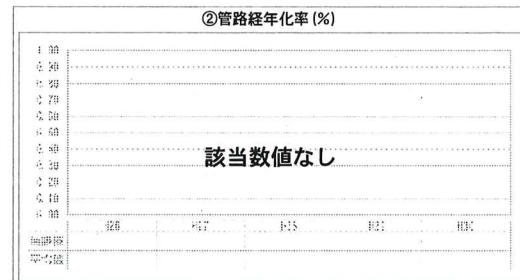
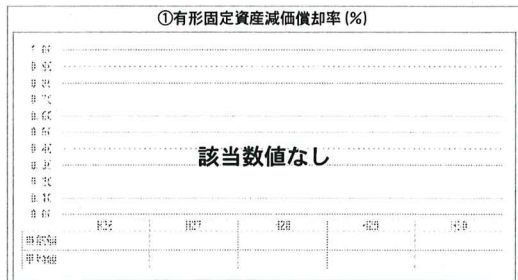
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
2,823	37.06	76.17
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
2,759	9.37	294.45

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
□	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益の収支比率において、本村は黒字経営ですが、給水収益の減少、老朽施設の修繕更新等の費用増大により経営状態は厳しくなっています。また一般会計繰入金の依存が高く、料金回収率が100%を下回っているため適切な料金収入の確保が必要です。

企業債残高対給水収益比率については、ここ数年は借入をしておらず、毎年減少傾向にありますが、平成30年度に東秩父村簡易水道事業基本計画を策定し計画に則り老朽化施設の更新等を行うため、今後企業債残高が増加する見込みとなっております。そのため、投資規模、料金水準が適切かを見極めていく必要があります。

また、給水原価も類似団体よりは低ですが、今後老朽化施設の更新等があるため、給水原価の高騰が予想され、料金の安定的確保が必要です。

施設利用率が60%台と減少傾向にあり、有収率も類似団体の平均値を下回っているため、施設の現状分析や将来の給水人口等を踏まえ、適切な施設規模にするため、統廃合やダウンサイジングの検討を行う必要があります。また、引き続き漏水等を計画的に改善し、有収率の向上を図らなければなりません。

2. 老朽化の状況について

管路更新については、類似団体平均値を下回り、平成30年度も減少傾向にありますが東秩父村簡易水道事業基本計画に則り老朽管の更新及び施設の統廃合、管路の適正化等を効率的に行うため、今後更新率が増加する見込みとなっております。

全体総括

各指標の値を類似団体と比較すると、良好な指標は多いですが、老朽化、耐震化等の施設の更新費用が増大することが今後、見込まれます。

今後も健全な事業運営を継続していくために、東秩父村簡易水道事業基本計画に則り効率的な施設整備等の更新を進めていかなければなりません。本村は、自己水源で水を供給していかねばならないため、事業の分析・評価・課題抽出を行い、中長期的な視点にたった安定した水道事業の運営をしていく必要があります。